

洛和会音羽病院

地域連携ニュース



5

〒607-8062 京都市山科区音羽珍事町2 TEL 075 (593) 4111(代) <http://www.rakuwa.or.jp/otowa/>

2022 May

洛和会音羽病院 病理診断科

がんの診療は 病理医が行う“病理診断”が命

大学病院レベルの検査も行なっています!

病理診断は、胃腸・肺・乳腺など、あらゆる臓器の組織や細胞に現れた病変を、「病理医」が顕微鏡で詳細に観察して行うものです。特にがんに対しては、より有効な治療のため、病理診断を欠かすことができません。

4月から常勤医師2人体制となりました!



洛和会音羽病院 病理診断科
部長 安井 寛
やす い ひろし

洛和会音羽病院 病理診断科
医員 嶋田 恵里
しま だ えり

年間実施件数

組織診断 約5,500件
細胞診断 約4,400件

病理診断の“現在”

病理診断は、患者さんから得られた組織から組織標本を作製し、顕微鏡的観察により形態的に診断するという古典的方法が病理診断の主体を占めます。しかし近年では、病変の分子遺伝学的理解や分子標的薬の開発に並行するように、免疫組織化学や in situ hybridization の重要性が増加しています。当科では古典的方法に熟達すると同時に、新しい技術を積極的に取り入れて診断に生かすよう日々努力しています。

会報誌『らくわ』6月号にも
病理診断の記事が掲載され
ますので、ぜひご覧ください。



病理診断科

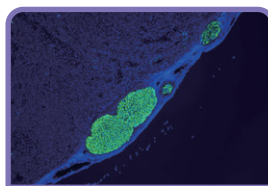


病理検査室



術中迅速診断

病理診断科では、手術中に外科医により採取され、病理検査室に送られた検体から、ごく短時間で組織または細胞診標本を作製し、がんの有無や種類などの所見を素早く読み取り、執刀医へ報告します。その目的は、病変の良悪性や断端の悪性所見の有無、感染の有無等、多岐にわたります。最近では蛍光免疫染色を併用し、より精度の高い術中迅速診断も行っています。



迅速蛍光免疫染色



標本作製風景



鏡検風景



洛和会音羽病院 外科
部長 松下 貴和

連携する診療科の医師から

術中迅速診断では、①悪性病変を疑うが、術前に病理診断がつかないものを術中に診断し、診断に応じた手術が行えます。②腹膜播種や傍大動脈リンパ節転移など遠隔転移を疑う場合、転移か否かの診断により根治切除可能かどうかを判断し、過大な手術を避けることができます。③切除断端にがんの浸潤がないかを検索し、必要に応じて追加切除を行い、がんの遺残を避けることができます。以上のことから、術中迅速診断は至適な治療のためには不可欠です。

4/1
着任

新入医師のご紹介

- 感染症科 医師 井藤 英之 (いとう ひでゆき)
- 口腔外科 医師 尾崎 尚 (おざき ひさし)
- 心臓内科 医師 伏村 洋平 (ふしむら ようへい)
- 消化器内科 医師 岡田 恵 (おか だ めぐみ)
- 口腔外科 医師 大澤 政裕 (おおさわ まさひろ)
- 小児科 医師 澤村 桃子 (さわむら ももこ)

- 泌尿器科 医師 今井 一登 (いまい かずと)
- 総合内科 医師 堀田 巨馬 (ほった こうま)
- 病理診断科 医師 嶋田 恵里 (しまだ えり)
- 歯科麻酔科 医師 竺 珊 (じく さん)
- 歯科麻酔科 医師 渡邊 俊宏 (わたなべ としひろ)

- 救命救急センター・京都ER シニアレジデント2年次 中森 滉二 (なかもり こうじ)
- 腎臓内科 シニアレジデント2年次 安積 尚杜 (あさか なおと)
- 外科 シニアレジデント2年次 いけじり たつき 池尻 達紀 (いけじり たつき)
- 呼吸器内科 シニアレジデント1年次 しばはら かずき 柴原 一毅 (しばはら かずき)
- 呼吸器内科 シニアレジデント1年次 ふるむろ たいせい 古室 太誠 (ふるむろ たいせい)
- 臨床研修科 シニアレジデント1年次 いのうえ かねあき 井上 鐘哲 (いのうえ かねあき)

洛和会音羽病院 地域連携課

業務時間 月～金曜日：午前8時30分～午後8時
土曜日：午前8時30分～午後5時15分

連絡先

地域連携課直通
TEL 075(593)7725
FAX 075(593)4160
E-mail otowa@rakuwa.or.jp

ご意見・ご質問・ご要望などございましたら
お申し付けください。

医療機関予約専用フリーダイヤル 0120(607)489